

# ビーだま

## ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2019年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

＜編集・発行＞ 富山市立図書館 富山市西町5番1号  
電話 076-461-3200  
令和2年4月23日発行（年1回発行）



## 貸出禁止の本をすくえ！

アラン・グラッツ／著 ないとうふみこ／訳 ほるぷ出版



引っこみ思案なエイミー・アンにとって、本は心の支えでした。ところが、大好きだった本が教育委員会によって貸出禁止にされ、図書室から消えてしまったのです。

司書のジョーンズさんとともに教育委員会の会議に出席したものの、なにも言えなかったエイミー・アン。くやしい気持ちから、貸出禁止の本を自分のロッカーに集めて〈ロッカー図書館〉を始めることを思いつきます。

## 天才ルーシーの計算ちがい

ステイシー・マカナルティ／著 田中奈津子／訳 講談社

画像なし

雷に打たれ、後天性サヴァン症候群になったルーシー。数字には天才的な力を発揮しますが、変わったくせをたくさんもっていて、中学校ではとまどうことばかりです。

自信をなくすルーシーでしたが、新しい友達と少しずつうちとけ、いっしょに捨て犬の保護施設でボランティアを始めます。そこで出会ったのは、一匹の病気の犬でした。

## チギータ！

蒔田浩平／作 佐藤真紀子／絵 ポプラ社

クラス内には階級があって、地味な存在の寛仁は、運動神経がよくケンカが強い男子たちにかないません。月に一度のレクリエーションも、いつも多数決でサッカーやバスケットに決まってしまう。

「卓球もやってみたい。」寛仁は親友のマッスーと協力して、小さな声を投票結果に反えいさせる作戦を考えます。



## よろしくパンダ広告社

間部香代／作 三木謙次／絵 学研プラス

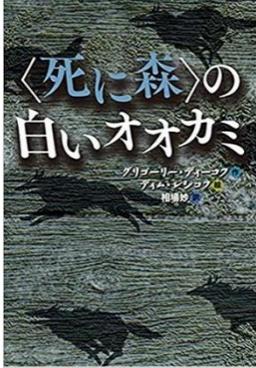


広告社ではCMやポスターを作ったりイベントを企画したりします。本田パンダの仕事は、商品を買いたくなるような言葉、〈キャッチコピー〉を考えることです。

初仕事はランドセルのテレビCMに決まりました。小学生に背負ってもらった感想からヒントをもらいます。しかし、撮影当日になっても納得するコピーができません。

## 〈死に森〉の白いオオカミ

グリゴリー・ディーコフ／作 ディム・レシコフ／絵 相場妙／訳 徳間書店



昔、ロシアのある村で、村人たちは白いオオカミの魔物<sup>まもの</sup>が住む森を焼きはらってしまいました。先祖が魔物と交わした、森には手を出さないという約束を破ったのです。

やがて〈死に森〉とよばれるようになった森で、多くの人がオオカミにおそわれます。やむをえず、村の男と少年は町へ武器を買いに出かけました。



## 今、空に翼<sup>つばさ</sup>広げて

山本悦子／著 くまおり純／絵 講談社

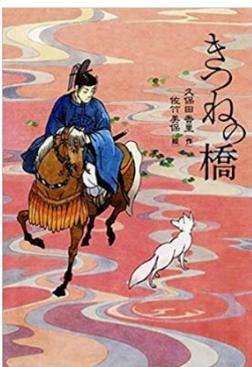
五年生の真紀<sup>まき</sup>は、台風の日、同じ通学班<sup>つうがくはん</sup>で一年生のつばさが家に入れずにいるのを見つけ、声をかけます。つばさは真紀に子犬のようになつき、真紀もつばさのことを気にかけるようになりました。しかし、ある日、つばさが真紀の家から冷凍<sup>れいとう</sup>パスタをぬすんでいたことがわかります。ショックを受ける真紀に、つばさはその理由を話しました。

画像なし



## きつねの橋

久保田香里／作 佐竹美保／絵 偕成社

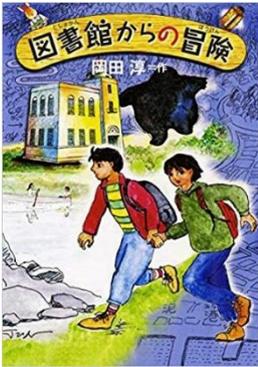


平安時代、源頼光<sup>みなものよりみつ</sup>の家来である平貞道<sup>たいらのさだみち</sup>は、橋<sup>ようかい</sup>の上で妖怪の白きつね・葉月<sup>はつき</sup>と知り合い、助け合う仲になります。

ある日、葉月は貞道に、自分の主<sup>あるじ</sup>に会ってほしいとたのみます。葉月の主は、賀茂神社<sup>かも</sup>に仕える姫君<sup>ひめぎみ</sup>でした。祭で使う扇<sup>あうぎ</sup>が用意できず、こまっている姫君のため、貞道は盗賊退治<sup>とうぞく</sup>で手柄<sup>てがら</sup>をあげ、扇を手に入れようと考えます。

## 図書館からの冒険<sup>ぼうけん</sup>

岡田淳／作 偕成社



廃校の図書館にし<sup>はいこう</sup>のびこんだ<sup>わたる</sup>渉は、時空をこえて不思議な島に迷いこみます。そこは渉の住む世界とつながっており、昔、大おじが結婚<sup>けっこん</sup>してくらしていた世界でした。

かつて美しかった島は、今では湖や井戸<sup>いど</sup>がかれ、あやしい生き物がうろついています。島を救うため、渉は住人たちとともに、水をつかさどる龍<sup>りゅう</sup>をさがす旅に出ます。



## 桜の木の見える場所

パオラ・ペレッティ／作 関口英子／訳 小学館

10歳<sup>さい</sup>になるマファルダは、少しずつ<sup>しりょく</sup>視力が失われる病気にかかって不安な毎日をすごしています。「暗やみでくらすようになったら、どうすれば色が分かるのだろう。」

マファルダは、とても大切だけれどいつかできなくなることのリストを作ることにしました。さらに、愛読書の主人公のように桜の木の上でくらすという計画を立てます。



## 11番目の取引

アリッサ・ホリングスワース／作 もりうちすみこ／訳 鈴木出版



サミは戦争でアフガニスタンを追われ、祖父と二人でアメリカに移り住みました。不安な日々の中、大切に持ってきた楽器〈ルバーブ〉をぬすまれてしまい、落ちこみます。

ある日、クラスメイトにお気に入りのキーホルダーをゆずってほしいと言われたサミは、売りに出されたルバーブを取りもどすための取引を思いつきます。